

第1回 星陽中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年9月3日

会場：星陽中学校

1 喫緊の課題「星陽中学校は吉川中学校との統合が望ましい」及び「星陽中学校と吉川中学校を統合した場合、口吉川小学校及び豊地小学校は、吉川中学校区の小中一貫校、義務教育学校への統合が妥当である」という総合教育会議が示した方向性について

- 中学校の学校再編は、やむなしだと考える。
- 統合をすることで、一定の集団規模としていくことは必要であろう。
- 細川地区の保護者は生活圏が三木であるため、吉川中学校への通学は抵抗がある。
- 瑞穂小がなくなった際のイメージがあり、学校がなくなることへのアレルギーはある。星陽中学校、志染中学校はどこかに吸収されてしまうという捉え方がある。
- 統合した学校においては、部活動の数が一定の期間維持できる形の統合を希望する。
- 子どもの人数が増加することで部活動が維持でき、校区外の学校へ行く者も減るのではないだろうか。
- 自分の経験として、部活動がよい思い出になっている。部活動に制限がかかるのであれば統廃合をし、適正規模にすることが必要である。

2 統廃合実施時の課題

- 今後、統合方法等のアンケートを取った場合、意見が2分されてしまった場合はどうするのか。
- 通学など、子どもに負担の少ない統合の仕方を望む。
- 子どもの負担として、低学年の遠距離の通学は負担が大きい。

3 三木市の学校再編に係る全体案

- 人口が減るから統廃合ではなく、減少する人口の中で魅力的な学校づくりをしていくことが大切なのではないか。
- 創造的な再編であってほしい。新しい学校にいろいろな価値をもたせることが大切である。
- 統合についてのマイナス面がクローズアップされている。プラス面をもっとアピールできればよい。
- 今の案が人数を合わせるだけのものに見える。三木市全体の方向性をもっと分かりやすく示してほしい。
- 学校規模だけでなく、通学方法などとセットで案を示してもらいたい。
- 学校の施設や位置がどのように変わっていくかなど、統廃合の流れがわかるよう地域住民にも示してもらいたい。
- 過去に、幼稚園の廃園が拙速に進み、後になってからいろいろ問題が出てきた。時間をかけることも必要ではないだろうか。

4 小学校の再編

- 小学校については、地域のコミュニティの核としての存在意義もある。
- 統廃合ありき、賛成か反対かだけしかないのか。子どもの教育を大切にするという立場とともに、地域コミュニティの中にある学校という立場もあるのではないか。
- 小学校1年から3年生は、分校制度のような形で今のままの学校で学び、4年から6年生は吉川地区と統合して、一定規模の学校の中で学ぶような2段階にする形もあるのではないだろうか。
- 中学校と小学校の問題は、同じではない。小学校の問題は、慎重にして欲しい。

5 地域の願いや課題

- ゴルフを活用した地域おこしや教育プログラムの開発を進めてはどうか。
- 統廃合後の学校跡地の利用方法検討が必要である。ゴルフアカデミーなどの特徴がある施設としての活用はできないか。
- 子どものため、ある程度の人数の集団が大切だと分かっているが、地域の思いがある。
- 三木市として、人口増加への取組が示されていない。

6 学校の様子

- 学校の歴史や戦前の教育の良さを地域が受け継いで学校や子どもを育てている。
- 多くの地域の方々に、学校教育に関わっていただいている。
- 新学習指導要領の中で示されている、「多様な考え方に触れる」という点では、集団の規模も大切だと考える。
- 合唱、運動会の種目、行事など、体験できる内容が限られてくる場合がある。そのために、現在は吉川小と豊地小の間で様々な連携をしている。
- 保護者の方も、小規模校の良さと不安の両方の考え方を持っている。通学のことも含めて、見通しのある案を示してほしい。
- 高学年の児童にリーダーとしての自覚を強く持たせながら学級経営を進めるなど、小規模校ならではの取組ができています。
- 子ども達は少ない人数を少ないと感じていない面もある。今の環境しか知らないのはメリットでもあり、デメリットでもある。
- 中学校では、少人数での人間関係構築に注意をはらったり、部活動の運営において工夫したりしている。

7 その他

- HPをひらいても、議事録に行きつかない。もっとわかりやすく広報をしてほしい。
- 新聞報道を見たが、統廃合ありきに感じられ、進め方に疑問が残る。発表されるもっと前に地域の声を聞くべきではないかと思う。
- 統廃合には、お金の問題があるはずだが、資料には出てこない。財政面は大丈夫なのだろうか。
- 遠方に住んでいる私の子どもの意見として、「実家に移り住んだとしても、1学年の子どもの数が1桁の学校はイヤだ」と言っている。
- 自分の経験から、いきなり高校から大きな集団になじむのは大変であった。